

ラテン・アメリカの 経済資料調査 (1)

さか た さだ よし
阪 田 貞 宜
こ さか まさ お
小 坂 允 雄

は し が き

本稿は昭和38年11月上旬より12月中旬まで約50日におわたって行なった「ラテン・アメリカ経済に関する資料収集のための現地調査」の概要である。

従来わが国におけるラテン・アメリカ経済研究は、欧米に比しはるかに立ち遅れており、ラテン・アメリカ経済に関する文献資料の組織的な収集はまったく行なわれなかった、とって過言でない。戦後に初めて独立を達成したアフリカ大陸の国々と異なり、その独立の歴史も長く、多くの同胞を送ったラテン・アメリカ諸国について、経済の実相を伝える資料のあまりに乏しいのは、むしろ奇異の感さえある。

その理由として、まず考えられるのは、ラテン・アメリカ文化の母胎であるラテン文化の特異性である。明治維新以来先進諸国に追いつくことに全力をつくした日本がもっぱら採り入れたのは主としてアングロ・サクソンの文化であり、当時すでに、政治的に過去の強大なエネルギーを喪失したラテン文化は、日本にとって2次的なものにしかうづらなかつた。つぎにラテン・アメリカ諸国はわが国の稠密な人口のはげ口として多くの同胞を送ったにもかかわらず、ラテン・アメリカ諸国に対し国全体として政策らしいものを持たなかつた。アジアに対する政策が、時としてその侵略的性格ゆえに非難されるにしても、国家の全勢力を注ぎ込んだ点を考えれば、その差異は明らかであろう。

このような基本的条件は、ラテン・アメリカと日本との関係が戦後における国際的環境の変化によって急速に緊密さをました今日においても、依然として残っているように思われる。われわれはこの障害を少しでも取り除くべく、今回の資料収集が役立てばと願っている。

I ラテン・アメリカ経済に関する資料収集上の問題点

1. 一般的にラテン・アメリカ諸国の出版活動は欧米諸国に比し低調で、所要の資料が入手しがたく、また刊行にも連続性がない点が指摘される。

2. 法律あるいは自然科学書に比し、経済関係の資料が少ない。ちなみに、バルセロナの国立図書館が1961年中に購入した資料を主題別にあげるとつぎのとおりである。

一般	120冊
宗教哲学	117
社会学	22
政治	44
経済	38
法律・行政	104
教育	35
語学	27
純粋科学	235
応用科学	57
医学	59
美術	42
文学	321
歴史	209
地理	47
伝記	25
稀書	1

ここにも上記のような傾向を大体反映していると思われる。なお、ラテン・アメリカにおいては人文科学に対する関心が強く、上記の表においても宗教哲学書、文学書、歴史書などの数によく表われている。

3. 書誌類が不備であり、とくにカレントな資料の追求はすこぶる困難である。

4. 販売組織が十分発達せず、とくに官公庁出版物については集中して入手する方法がない。海外よりの購入については、国によりインフレーションが大きな障害となる。

5. 写真複製設備が普及していない。中央銀行、統計局などには国により経済関係の貴重な資料が収集されているが、写真複製設備がないので海外からの利用はほとんど不可能である。将来何らかの方法でこの障害が打開されることが切望される。

6. 近年スペイン語、ポルトガル語への翻訳が盛んになった。メキシコの Fondo de Cultura Económica の出版活動などがその好例である。したがって、言語のみで選書するのはすこぶる危険である。また、Kennedy 大統領の提唱した「進歩のための同盟」は、文盲の撲滅と

知的水準の向上をその目的の一つとしているが、この同盟の下にラテン・アメリカにおける図書の普及をはかる多くの計画が企てられており、この面でもアメリカ合衆国の著作の翻訳が増大するであろう。

7. 最後にラテン国民の特性のためか、運営が非組織的で個人中心であり、組織の長 (director) と直接連絡しないと事が運ばない場合がしばしばある。このことは一般の商取引についてもあてはまる。緊密な人的なつながりのない場合、信用取引は危険なことが多く、予約金を送っても現物が届かなかったり、送金したにもかかわらず相手方に届かないというような事態がしばしば起こる。

以上のような収集上の諸問題を解決するには、いかなる方法があるだろうか。結論としていえば、現地へ人員を定期的に派遣するか、現地に収集の代行機関をおくより方法がないように思われる。ラテン・アメリカ研究でははるかに進んだアメリカ合衆国が行なっている方法はこの点大いに参考となる。

《付》 アメリカ合衆国におけるラテン・アメリカ資料の収集 —SALALM について—

アメリカ合衆国におけるラテン・アメリカ資料の収集は、その地理的および歴史的条件の当然の結果として、古い歴史と規模の大きさを持っている。戦後における国際環境の変化、とくに「進歩のための同盟」にみられるようなラテン・アメリカへの積極的な態度は、アメリカ合衆国におけるラテン・アメリカ研究をますます広範なものにし、したがってラテン・アメリカ資料の収集をますます活発にさせている。このような資料収集の面で、とくに目立つ活動は、「ラテン・アメリカ資料の収集に関するセミナー」(The Seminar on the Acquisition of Latin American Library Materials; 略称 SALALM) であろう。以下にその概要を述べれば、SALALM は1956年フロリダ大学図書館および Pan American Union の発起によって、ラテン・アメリカ資料の収集に関する諸問題を解明するため、第1回の会合を開いたが、以後逐年その規模を広げ多くの成果を生んで、今日に至っている。その最大の特徴は、アメリカ合衆国の組織として生まれながら、むしろ米州間の組織としての性格をもっていることで、今日ラテン・アメリカ資料はラテン・アメリカ諸国よりもむしろアメリカ合衆国にあると言われるほどの成果をあげたのも、一つには、この米州間の組織としての性格によるものと思われる。

SALALM は五つの委員会、すなわち、

- (1) 組織委員会 (Organizing Committee)

- (2) 収集委員会 (Acquisition Committee)
- (3) 書誌委員会 (Committee on Bibliography)
- (4) 交換委員会 (Committee on Exchange of Publications)

(5) 写真複製委員会 (Committee on Photoduplication) からなっている。組織委員会はSALALM運営の中心となる委員会で、最初の発起者であるフロリダ大学図書館および Pan American Union のほか、Library of Congress, New York Public Library および Inter-American Bibliographic and Library Association の諸機関によって代表されている。いずれも膨大なラテン・アメリカ資料の所蔵機関である。収集委員会は五つの小委員会、すなわち、

- (1) 共同収集小委員会 (Subcommittee on Cooperative Acquisition)
- (2) アルゼンチン小委員会 (Subcommittee on Argentine Acquisitions)
- (3) カリビアン小委員会 (Subcommittee on Caribbean Acquisitions)
- (4) チリ小委員会 (Subcommittee on Chilean Acquisitions)
- (5) メキシコ小委員会 (Subcommittee on Mexican Acquisitions)

におかれる。共同収集については後述するとして、他の小委員会は地域に分かれるが、その地域はしだいに拡大されるであろう。委員長がアメリカ合衆国と当該国との共同である点に特色がある。

SALALM の活動は、大要上記委員会の種類によって示されているが、具体的にどんな議題が討議されたのであろうか。第1回より第7回までのものを列挙すれば、

第1回

- (1) 資料および書誌の選択
- (2) 図書資料の購入および交換
- (3) 非図書資料
- (4) 逐次刊行物とその収集

第2回

- (1) メキシコからの収集
- (2) 逐次刊行物収集の諸問題

第3回

- (1) アルゼンチンおよびチリからの収集
- (2) ラテン・アメリカ資料の写真複製

第4回

- (1) 大学、研究機関の地域研究に対する図書館の援助

第5回

- (1) カリビア諸島からの収集
- (2) 刊行物の国際交換

第6回

- (1) コロンビアおよびヴェネズエラからの収集
- (2) ラテン・アメリカ資料の書誌

第7回

- (1) 中米およびパナマからの収集
- (2) 共同収集計画の評価

である。会議の結果は、final report, working papers, special report などの形で公表され、また多くの勧告および決議が行なわれる。現在のところ、書誌に関する勧告および決議が最も多いが、組織的な収集の道具としての書誌の整備がまず問題とされたのであろう。

つぎにこのような活動によって、どんな成果がみられたのであろうか。

1. ファーミングトン計画 (Farmington Plan) への参加

ファーミングトン計画とは、海外の刊行物を少なくとも一部は国内のどこかで利用しうる体制を作ることを骨子としているが、この Farmington 計画の一部として調査図書館協会 (Association of Research Libraries) にラテン・アメリカ小委員会 (Subcommittee on Latin America) の設置を要請し、小委員会は1961年までにその割当を完了した。したがって、各参加機関はそれぞれ特定の対象国の資料に関する収集、利用などの義務を分担している。

2. 現地調査

1958年 Library of Congress の一員である William H. Kurth 氏をラテン・アメリカ諸国に派遣し資料事情の調査を行なった。

3. ラテン・アメリカ資料共同収集計画 (Latin American Cooperative Acquisitions Project; 略称 LACAP)

William H. Kurth 氏の調査によって現地における資料収集の必要性が明らかにされたが、各図書館は現地に駐在員を派遣する余裕がなかった。これに対し、New York の出版社 Stechert-Hafner 社が財政的援助を申し出るとともに、当社が現地にて資料を収集し、各関係機関は特定地域の特定分野について一括注文をする方式が考え出された。1958年にまず New York Public Library が参加し、ついでラテン・アメリカ関係の主要研究機関が参加した。テキサス大学図書館のラテン・アメリカ文庫長 Nettie Lee Benson 博士は1960年前半および1961

年前半にラテン・アメリカ諸国を回り、その調査結果をそれぞれ1960年および1961年のセミナーに報告している。結局 LACAP はいまだ多くの改善の余地を残しながらも一応の成功を収め、各大学、研究機関は以前より豊富にラテン・アメリカ資料を入手することができるようになった。現在では、Stechert-Hafner 社はコロンビアのボゴタに駐在員をおき、ラテン・アメリカ各地を回って収集に当たっている。

以上がアメリカにおけるラテン・アメリカ資料収集計画の概要であるが、今さらながらその規模の大きさと方針の徹底さを感じさせられるとともに、そこにはアメリカ合衆国が国全体としてラテン・アメリカに対していく一つの姿勢を感じとることができる。このような姿勢と、そこから生ずるラテン・アメリカ研究の深さを思うとき、資料収集という地味な作業も、これを組織的に行なおうとすれば、結局は国全体の目指す方向に強く影響されることを改めて痛感させられる。ひるがえってわが国におけるラテン・アメリカ研究の現況をみれば、その研究を有機的に結合する組織すら十分に根をはってはいない。つまりわが国のラテン・アメリカに対する関心が国全体として結集していないからにはほかならないといえよう。われわれの行なったラテン・アメリカ資料の収集にもこの面でおのずから限界があり、その限界の中で最も効率の高い収集とはいかにすべきなのか、迷うことしばしばであった。ラテン・アメリカ資料の整備とラテン・アメリカ研究が国全体の強い関心の下に表裏一体となって進展し、やがてはわが国独自のすぐれたラテン・アメリカ研究の成果がみられることを夢みるしだいである。

II メキシコ

11月2日、ロサンゼルスから約2時間の時差を越えて高度2000メートル余のメキシコ・シティーに到着する。年間8億ドルもの観光収入をあげる国だけあって、上得意のアメリカ人旅行者といっしょに入国すれば、うるさいときいていた税関検査もただ形ばかりである。アメリカとの結びつきは、ただ単にこういった旅行者の面だけに限らない。第1次大戦直後まで、アメリカの中南米投資の約60%は、メキシコに対してであったし、現在でもメキシコ主要企業の80%はアメリカ系であるといわれている。このことは、たとえば旅行者の目に一番よく触れる乗用車について、またガタガタの小さなオムニバスについて、端的に現われる。ところが同じ旅行者は、これ

現地報告

とまったく正反対の現象を、石油産業についてみる事ができる。

日本ではすでにあたりまえの風景となったエッソや、モービルや、シェルのガソリン・スタンドが、街角のどこにも見当たらないのである。

あるのは、Petróleos Mexicanos のスタンドばかりである。こういった日本とまったく逆の現象は、実に印象的であった。

この国有石油会社は、1938年、メキシコにあった外国石油会社を接収して設立されたものであり、以後多くの危機をのりこえて、いまや『フォーチュン』のアメリカを除く世界企業番付の第50位を占め、年間売上高5億4000万ドル、総資産9億7000万ドルの規模を誇る大企業となっている。

Petróleos Mexicanos はメキシコ工業化の中心をなす戦略企業であり、したがって、この成功がメキシコを、LAFTA 諸国の中心的存在たらしめているゆえんでもあろう。

メキシコにおける出版活動は、アルゼンチンについて盛んである。後述の Fondo de Cultura Económica の叢書は、中南米のいたる所の書店でみることができる。美術書、一般書にしても、その数は多い。市の中心にあるアラメダ公園の近くには、Porrua を始めとして、かなり規模の大きい書店が集まっている。

余談になるが、アルゼンチンでたまたま買った幼児の絵本が、よくみるとメキシコで出版されたものであり、さらに驚いたことに、それは日本の絵本の翻訳されたものであった。こういったメキシコの資料面における豊富さと、それを支える整備された諸研究機関をみると、メキシコは中南米研究にとって一つの大きな拠点であるということができると思う。

以下に、われわれが訪問した主要機関と、その資料を概括しよう。

1. Nacional Financiera, S.A.

1934年創立、半官半民の長期金融機関。

設立当初の目的は、主として公社債・株式市場の育成・援助にあったが、1941年、組織法改正によって、投資銀行としての地位を確立した。参加証書 (Certificado de Participación)、金融債 (Título Financiero) の発行によって、国内資金を動員し、また、ワシントン輸出入銀行その他外国銀行からの借款を通じ、工業化に必要な資金を供給することによって、Nacional Financiera はメキシコ経済の発展に大きな役割を果たしている。最近の法

改正によって、Nacional Financiera の株式に占める民間資本の割合は、49%に引き上げられ、執行委員会の構成は、民間4、政府3の割合となった。

資料配布部門は、Publicaciones y Relaciones Industriales、おもな資料はつぎのとおりである。

資金構成

(単位：100万ペソ)

	1961年	1962年
資本・準備金	812.4	897.5
債券発行	2,909.5	3,628.5
外国借款	5,318.3	7,105.6
保証債務	5,164.2	6,702.4
信託	1,061.5	948.4
その他	94.6	166.2
計	15,360.5	19,448.6

投融資状況 (1962年)

(単位：100万ペソ)

	投融資額	比率(%)
(1) 基礎部門	9,917.8	51.0
交通・通信	2,938.6	15.1
電力	5,045.5	26.0
道路・橋梁	317.4	1.6
灌漑	168.4	0.9
その他	1,447.9	7.4
(2) 基幹産業	2,690.5	13.8
鉄鋼	912.5	4.7
石油・石炭	1,491.3	7.6
セメントその他建築資材	56.0	0.3
非鉄金属	230.7	1.2
(3) その他諸工業	3,919.4	20.2
食料品	514.3	2.6
繊維	170.9	0.9
紙・セルロース	274.4	1.4
化学製品	499.9	2.6
機械金属製品	220.7	1.1
運搬機械	1,001.8	5.2
その他	1,237.4	7.4
(4) その他	2,920.9	15.0
総計	19,448.6	100

(1) *Informe anual* (1962)

(2) *Informe de actividades* (1962)

年間の事業報告書である。それによる 1962 年度の Nacional Financiera の資金構成、投融資状況は、前表のとおりである。

投融資の対象である工業企業 60 社のうち、13 社において Nacional Financiera は株式の過半数を所有している。その企業名は以下のとおりである。

Altos Hornos de México, S.A.

Ayotla Textil, S.A.

Clasa Films Mundiales, S.A.

Chapas y Triplay, S.A.

Fabricas de Papel Tuxtepec, S.A. de C.V.

Guanos y Fertilizantes de México, S.A.

Industrial Eléctrica Mexicana, S.A.

Ingenio Independencia, S.A.

Ingenio Rosales, S.A.

Maderas Industrializadas de Quintana Roo, S.A.

Siderurgica Nacional, S.A.

Operadora Textil, S.A.

Refrigeradora del Noroeste, S.A.

(3) *The Contribution of Nacional Financiera to the industrialization of Mexico*, J.H. Delgado, 1961.

Nacional Financiera の性格・機能について簡単に紹介したもの。著者は同機関の Director General。

(4) *Mercado de valores* (週刊) (1962~)

Nacional Financiera の投融資先の産業動向、株式市場の動きを報じたもの。

その他、パンフレットとしてつぎのものが発行されている。

(5) *The Economic development of Mexico during a quarter of a century, 1934~1959.*

(6) *El Financiamiento del desarrollo económico de México.* 1960.

(7) *Confidence as a decisive factor in the growing Mexican economy,* 1963.

2. メキシコ銀行 (Banco de México)

メキシコ中央銀行、1925年創立。政府出資51%。調査研究部門として、Depto. de Estudios Económicos, Depto. de Investigaciones Industriales を持っている。図書館は後者に所属、蔵書約2万7000、雑誌1300、経済関係の U.S. Library of Congress Card を所蔵。マイクロ・フィルム化された資料として、メキシコ経済史に関

するものがある。1956年以降、内外の新聞記事のクリッピングを行なっている。

逐次刊行物としては、以下のものがある。

(A) Depto. de Estudios Económicos

(1) *Boletín bibliográfico* (1963~)

図書館の収集資料月報。

(2) *Bibliografía económica de México* (1963~)

メキシコ経済に関する内外の図書・雑誌論文を収めたもの。

(3) *Pontuario periodístico económico* (日刊)

内外新聞の経済関係記事を抜萃、要約したもの。

(B) Depto. de Investigaciones Industriales

(1) *Bibliografía industrial de México, 1954~56, 1957~58, 1959~60, 1961.*

メキシコの鉱工業に関する資料を中心に、メキシコ経済に関する内外の図書、雑誌論文を収録したもの。

その他、以下の出版物がある。

(2) *Aprovechamiento de los recursos forestales,* 1956~58.

(3) *La Estructura industrial de México en 1950.*

(4) *La Industria azucarera de México,* 1953~55.

(5) *La Industria de los alcalis y sus posibilidades de desarrollo en México,* A.G. Soria.

(6) *La Producción de acero eléctrico en México,* C. Navarrete.

(7) *Riqueza minera y yacimientos minerales de México,* J.G. Reyna, 1956.

3. ラテン・アメリカ金融研究センター (Centro de Estudios Monetarios Latinoamericanos; 略称 EM LA)

1952年創立。ラテン・アメリカ諸国の中央銀行をメンバーとして構成されている。調査研究部門を持ち、また開発計画その他のプロジェクトの専門家を養成する研修制度をもっている。図書館は目下整備中。

出版資料は、外国語からの翻訳文献が多い。当研究所はあらたに以下のものを入手した。

(1) *Técnicas financieras.*

ラテン・アメリカの金融問題専門誌。

(2) *Aspectos financieros de las economías latino-americanas,* 1962.

ラテン・アメリカ金融情勢の年次報告書。

その他

(3) *Inflación y desarrollo los experiencias de*

México, B.N. Siegel, 1960.

(4) *Función de los precios en el desarrollo*, O. Gouvea de Bulhoes, 1961.

(5) *Cooperación financiera en America Latina*, 1963.

4. 一般行政局 (Dirección General de Administración)

Secretaría de Industria y Comercio に所属。

同省所属の Dirección General de Estadística, Secretaría de la Economía Nacional 所属の Dirección General de Estadística などの出版物, その他, 官庁統計資料はここでまとめて入手することができる。

(1) *División municipal de las entidades federativas*, 1962, 1963.

(2) *Catálogo general de las estadísticas nacionales*, 1960.

(3) *Índice del catálogo general de las estadísticas nacionales*, 1960.

(4) *Anuario estadístico del comercio exterior de los Estados Unidos Mexicanos*, 1962, 1963.

(5) *Anuario estadístico de los Estados Unidos Mexicanos*, 1960~61, 1963.

(6) *Censos agropecuarios, 1930, 1940 y 1950*, 1959.

(7) *II censo ejidal de los Estados Unidos Mexicanos*, 1940, 1949.

(8) *III censo agrícola ganadero, 1950*, 1955.

(9) *VI censo de población, 1940*, 1948.

(10) *VII censo general de población, 1950*, 1953.

(11) *VIII censo general de población, 1960*, 1963.

5. 国立図書館 (Biblioteca Nacional)

メキシコにおいて中央図書館としての機能をもちつつものは, 図書資料を保管する Biblioteca と新聞雑誌を保管する Hemeroteca とに分かれている。

Biblioteca Nacional

1833年の創設になる由緒ある図書館であり, 多くの価値あるコレクションを蔵しながら近代的な中央図書館としての機能は持っていない。現在は, メキシコ国立大学 (Universidad Nacional Autónoma de México) の一機関であるが, 超近代的な大学の図書館とは別個の公共図書館である。

Hemeroteca Nacional

Biblioteca Nacional とは別に古い年代よりメキシコの雑誌新聞を広範囲に収集保管している。これも建物も古

く, 資料の整理状況はその資料の価値に比してあまりにもなおざりにされている。少なくとも上記両者は現代のメキシコ経済に関する資料を知る上にはほとんど役に立たない。

6. 書店

(A) Fondo de Cultura Económica

メキシコ国内ばかりでなく, ラテン・アメリカ各国に支店を持つ同地域最大の出版社兼書店。文学作品を主とした文庫本から, 社会科学, 自然科学の概説書, 専門書に至るまで, 出版は多彩である。半官半民の性格を持つためか, 啓蒙的な翻訳書が多い。当研究所ではすでにかんがりの資料を所蔵しているが, 新たにつきのものを購入予約した。なお, 前記 CEMLA の出版物は, この Fondo から発売されている。

(1) *El Trimestre económico* 季刊 (1934 <創刊号> ~)

編集委員には, Jorge Ahumada, Celso Furtado, Raúl Prebisch などがいる。ラテン・アメリカにおける代表的な経済専門誌, 特に後進国における経済発展の諸問題を多角的に取り扱っている。メキシコ経済に関する論文が多いが, そればかりではない。また, 純粋に経済理論的な論文も多い。欧米の経済学者の論文の翻訳がかなりの比率を占めている。現在120余号を数えるが, 第100号には, 1号から100号までの記事索引が入っている。

(B) Librería de Porrúa

メキシコ・シティにおける代表的な書店。文学, 自然科学関係の資料が多いが, 社会科学関係について, 以下のものを入手した。なお図書目録として, *Boletín bibliográfico mexicano* を隔月に出版して, 利用者の便を図っている。

(1) *Comercio de México con Centroamérica*, F.A. Quintero, 1963.

(2) *El Capital monopolista y la economía de México*, J.L. Ceceña, 1963.

(3) *Tres aspectos del desarrollo económico de México*, M.R. Beteta, 1963.

(4) *Avances y obstáculos en la ALALC*, 1963.

(5) *Población y desarrollo económico*, G. Loyo, 1963.

(6) *Historia de la expropiación petrolera*, J. Silva Herzog, 1963.

(7) *Bibliografía general del Estado de México*, M. Colin, 1963.

- (8) *Doce años al servicio de la industria petrolera mexicana*, A.J. Bermudez, 1960.
- (C) Librería Universitaria
- (1) *Bibliografía de la historia de México*, R. Ramos. 1956.
- (2) *Economía de la cuenca del Papaloapan*, J. Attolini. 1950.
- (3) *Política económica*, F.C. Pinto. 1958.
- (4) *Diferencias y semejanzas entre los países de la América, Latina*, E.M. Estrada. 1962.
- (5) *Contribución del derecho del trabajo a la reforma agraria mexicana*, A.B. Ezeta. 1963.
- (6) *El Liberalismo mexicano*, J.R. Heróles. 1957.
- (7) *México y su desarrollo económico*, V.F. Bravo. 1963.
- (8) *La Ideología norteamericana sobre inversiones extranjeras*, P.G. Casanova. 1955.
- (9) *El Liberalismo y la reforma en México*, U.N. A.M. Escuela Nacional de Economía. 1957.

III コロンビア

南アメリカ大陸の山脈アンデスは、南北にいくつかの支脈をつくらせてコロンビアを縦断している。コロンビアの地方都市はこれら支脈間の平地に発達し、都市間の連絡は極度に妨げられるので、ラテン・アメリカ諸国にはめずらしく地方分権的な性格をもっている。したがって、ボゴタ (Bogotá) はコロンビアの首府ではあるが、地方都市、とくにアンティオキヤ (Antioquia) のメデリン (Medellin)、バエ・デル・カウカ (Valle del Cauca) のカリ (Cali) は、ボゴタに劣らぬ重要性をもっている。今回の資料収集はボゴタのみを対象としたので、残念ながらこの点問題を今後に残した。

1. 統計局 (Departamento Administrativo Nacional de Estadística; 略称 DANE)

DANE はコロンビアにおける統計活動の中心機関であるが、とくに出版広報のために一部局 (División de Publicaciones e Información) を設けている点、統計関係の資料情報をうるのに有力な機関である。この出版広報部の下に図書館 (Biblioteca) が設けられ、内外の経済関係資料を多く集めているが、とくに国内刊行物は有益なコレクションである。その内容については当局出版物 *Boletín Bibliográfico No. 6* のうち国内刊行物の項を参照されたい。

なお、DANE の刊行物にはつぎのようなものがある。
(1) *Informe al Congreso Nacional*, 1963.

国会に対する年次の報告書である。DANE の組織は六つの部 (División) からなるが、そのうち管理部門を除くとつぎの4部に分かれる。

División de Recolección de Datos

División de Censos

División de Estadística Económico-Financieras

División de Estadística Socio-Culturales

したがって、この報告書により全国センサス、農業統計を初めとする主要な統計活動の年次の概況を知ることができる。

(2) *Boletín mensual de estadística*.

(3) *Anuario de comercio exterior*, 1961.

(4) *Directorio nacional de explotaciones agropecuarias*, 1962. Vol. 1. Departamento de Cundinamarca. Vol. 2. Departamento de Caldas.

1960年に行なわれた農業センサスの結果に基づき上記2県についての表である。なおセンサスについてはそのほか概要 (Resumen) が出版されている。

(5) *Directorio nacional de la industria Manufacturera*, 1960.

1953年の工業センサスで記録された全国事業所のうち、1957年末に現存するものの一覧表である。

(6) *Cifras Estadísticas de la Industria Manufacturera Nacional*, 1961.

DANE の所蔵する資料によつて、1958年におけるコロンビア諸産業の概観を全国および地方別に数字をもって示している。

(7) *Anuario Estadístico de la Ciudad de Bogotá*, D.E. 1961.

(8) *Breve Reseña Estadística de la Ciudad de Pamplona*, Noviembre de 1962.

(9) *Anuario General de Estadística*, 1960.

(10) *El país en cifras*, Mayo de 1963.

(11) *División Territorial Judicial*, 1963.

そのほか、コロンビアの図書館活動に関するものとして、

Boletín Bibliográfico, No. 6, 1962.

La Biblioteca en Colombia, 1960, 1961. (Boletín No. 7)

などが出版されている。

2. ロス・アンデス大学、経済開発研究センター

(Universidad de Los Andes, Centro de Estudios sobre Desarrollo Económico)

母体であるロス・アンデス大学はボゴタの名山モンセラテの麓にある古びた趣をもつ、こじんまりした大学である。センターは1958年にコロンビアにおける経済上の諸問題、とくに経済開発に関する調査研究を目的として付置されたもので、ロックフェラー財団が実質上このセンターの発展を援助している。センターの編さん刊行した解題目録 *Bibliografía comentada sobre el desarrollo y la economía Colombiana, por Humberto Vegalara, 1959* は、コロンビアにおける経済関係の資料とその所在を知る上にきわめて有用な目録である。しかしながら、当センターには複製サービスの設備がなく、海外から目録を活用する方法がないのは残念である。センターの行なった調査の結果は、主としてパンフレットで刊行されているが、その主なものをあげるとつぎのとおりである。

- (1) *Informe anual, 1959~1961.*
- (2) *Finanzas públicas departamentales y municipales comparadas en Colombia, 1957,* Alvarez C. Javier. 1960.
- (3) *Ocupación y desocupación en Bogotá. Los Alcázares-Quiroga-Las Ferias,* Antequera S. Miguel 1962.
- (4) *Financiación pública del transporte; carreteras nacionales en Colombia,* Contreras N. Victor 1962.
- (5) *Población ingresos y requisitos de capital, Colombia 1957~1975,* M. Hunter John y J. Anthony S. Ternent. 1960.
- (6) *Colombia, proyecciones de población y métodos empleados 1951~1975,* Prieto D. Rafael y Francisco J. Ortega. Resumeu. 1961.

3. コロンビア国立大学経済学部 (Universidad Nacional de Colombia, Facultad de Economía)

1573年に設立された古い大学で、コロンビアの文教の中心であるが、経済学部は現在のところ教育が中心で、調査研究活動はいまだ十分とは思われない。図書室も蔵書数約2500冊で目立った特色は見られない。

4. 共和国銀行 (Banco de la Republica)

ボゴタの中心街ヒメネス通り (Avenida Jimenez) に面する大ビルディングが当銀行である。コロンビアの中央銀行であり、国家の監督をうけるが国家機関ではなく私

企業である。博物館 (Museo del Oro), 公共図書館を運営しているのもめずらしい。

当銀行の経済調査部 (Departamento de Investigaciones Económicas) は活発な調査活動を行っており、月報 (Revista) をはじめ多くのコロンビア経済に関する調査書を出している。

ルイス・アンジェール・アランゴ図書館 (Biblioteca Luis-Angel Arango) は当銀行が経営する前記の公共図書館である。ボゴタの山手の市街地の中に建てられた近代的な図書館であり、現在の蔵書数は約10万冊といわれる。当銀行のもつ経済力からみて将来の充実が予想される。機関誌として *Boletín Cultural y Bibliográfico* を刊行している。

5. 国立図書館 (Biblioteca Nacional)

閑静な山手地区にスペイン風の偉容をもつ国立図書館は、いかにも文化の殿堂にふさわしい落ち着いた雰囲気をもっている。1939年の設立になり、蔵書数は約20万といわれる。コロンビアに関する文献資料はコロンビアを調査研究する上に見のがせないコレクションであるが、一般的にいえば、国立図書館としては規模も小さく、その機能も近代化していない。とくに新しさを要求される経済関係の資料の情報源としてはいまだ役立たない。

6. 書店

ボゴタにおける書店は、ボゴタの目抜き通りアヴェニダ・ヒメネスに一際目立つ Librería Buchholz が最大のものである。しかしながら、各室にいったいの図書は、主として欧米のもの、あるいはメキシコ、アルゼンチンのものが多く、コロンビア自体の出版物はあまり見当たらない。したがって、官公庁出版物はもちろんのこと一般図書についても、これを集中して購入する方法がない。市中の他の書店は規模も小さく大同小異であるが、そのうちでも Librería Mundial は比較的取引の上で能率のよい書店である。自店の販売目録を持つ書店は見当たらなかった。

IV ベネズエラ

石油の国。原油生産は年間1億4000万トン、世界一の石油輸出国で、石油収入が国家予算の70%を占める。人口約800万、1人当たりの国民所得約1100ドル、立体交差のオートヒスタにはアメリカ製の大型車が列をなし、大通りには、真白なオフィス・ビルと、ベランダに花のあるしゃれたアパートが立ち並ぶ。どしゃ降りの雨の中を訪れたベネズエラ中央大学の図書館、ホールも、無気

味なほどに豪華華麗であった。

しかし、もう少しよくみれば、人はまた違った風景をみることができる。

ビル街のすぐうしろに迫る山の斜面には、ランチョと呼ばれる貧民窟が密集している。そこには、首都カラカスの人口150万の約3割が住んでいるといわれている。コーラを飲みにはいった売店では、失業中の運転手がいて、市内を案内しようと申しでてくる。下町の商店街では、日付の鋭い若者たちが軒なみに突っ立っている。物価はアメリカなみに高く、中級ホテルで8ドル、ちょっとタクシーに乗れば1ドルはすぐである。

わたくしの帯在中、カラカス市内は12月1日の大統領選挙を目前にして、緊張した雰囲気には包まれていた。人民解放同盟(FALN)のテロが活発で、夜は外出ができない。官庁、中央銀行など要所要所には、機関銃を持った兵隊が警備に当たっている。空気をガラガラ引きずり警笛をならし、候補者名を連呼する自動車が、街を夜遅くまで走りまわる。

このような状況下での資料収集は容易でない。主として、官庁出版物の収集にあたったが、かなりの資料があるにもかかわらず、その配布組織が確立されていないのは遺憾であった。

1. ベネズエラ開発公社 (Corporación Venezolana de Fomento)

Ministerio de Fomento に所属。1946年、工業化のための長期融資機関として、全額政府出資(2700万ドル)によって設立された。その後、毎年国家予算総額の2~10%がこの CVF の資金に充当され、1962年現在、総資産は5億ドルを越えている。

新規事業設立に際しての出資、既存企業の設備拡張のための融資、技術援助などの事業活動を通じて、工業化推進の中心機関となっている。出版物には以下のものがある。

(1) Report, 1962.

年間の事業報告書であるが、これによれば、1962年の CVF の産業部門別融資状況は下表の通りである。

さらに、主要企業別に CVF の投資額と所有株式の割合をみみると、つきのごとくである。

CADAFE (電力)

Bs. 320,443,000 98.6%

1962年の上半期で、国内総出力の34%を占めている。

Banco Industrial de Venezuela

Bs. 76,440,000 98%

主として、中小企業へ融資。

FOMTUR (観光)

Bs. 44,997,000 74.99%

C.A. Venezolana de Navegación (海運)

Bs. 43,077,600 59.57%

CVF-Centrales Azucareros (砂糖精製)

Bs. 100,000,000 100%

1962年において、ベネズエラの砂糖生産の37%を占めている。

Minas de Carbon de Lobatera (石炭)

Bs. 996,000 96.7%

VIASA (航空)

Bs. 9,000,000 45%

COPRA (牧畜)

Bs. 2,150,000 43%

Venezolana de Alimentos (食品加工)

Bs. 2,000,000 16.66%

C.A. Nacional Teléfonos de Venezuela (電話)

Bs. 7,019,000 2.87%

(2) Carta quincenal de la CVF (1963~)

CVF の融資状況、特別プロジェクトの内容、傘下主要企業の動き、などが主な内容であるが、その他、ベネズエラ経済の工業化における具体的諸問題を重点的に取

	融 資 状 況 (1962年)						(単位: 1000 Bs.)	
	長期待付	件 数	短期待付	件 数	裏 書 き	件 数	合 計 額	件 数
農 水 産, 牧 畜	363	4	—	—	100	1	463	5
鉱 山, 採 石	100	1	—	—	—	—	100	1
製 造 工 業	78,934	133	13,573	7	117,332	93	209,839	233
交 通・通 信	4,015	3	—	—	5,245	3	9,260	6
サ ー ビ ス	13,400	14	—	—	30,159	3	43,559	17
総 計	96,812	155	13,573	7	152,836	100	263,221	262

り上げている。

その他の資料は、以下の通りである。

- (3) *Documentos relativos a la posibilidad de venta de algunas empresas de la CVF*, 1958.
- (4) *Industria del cemento*, 1962.
- (5) *Aceites y grasas vegetales comestibles*, 1962.
- (6) *La Producción y el consumo de la zona occidental del país y el desarrollo industrial del Zulia*, 1961.
- (7) *Sentido y orientación de la política económica de la CVF*.
- (8) *Aspectos geográficos del Estado Monagas*.
- (9) *Aspectos geográficos del Estado Barinas*.
- (10) *The Distribution of opportunity in Venezuela*, 1963.

2. 大統領府、中央計画室 (Secretaría General de la Presidencia. Oficina Central de Coordinación y Planificación)

- (1) *Plan de la Nación, 1963~1966*.

各省から出された開発計画を、大統領府中央計画室を総合、決定したものを、1960年に“Plan cuatrienal, 1960~64”が発表されたが、その後の経済情勢の悪化のため1963年5月、新たに、前計画を大幅に修正した4カ年計画が発表された。

これは、「進歩のための同盟」計画の一環をなしている。投下資金総額は、国内資金240億ボリパール、国外資金40億ボリパール、計280億ボリパール、国民総生産を1962年の280億ボリパールから1966年の350億ボリパールへ、年平均8%の経済成長率を達成せんとし、また、その間、工業生産は、国民総生産の12.8%から28.2%に高めんとしている。しかし、これらの諸目標は、物価の上昇、石油生産の見通し、農地改革などからみあってかなり問題があると思われ、1964年2月に発足したレオニ内閣の経済政策に期待がかけられている。

3. ベネズエラ中央銀行 (Banco Central de Venezuela)

- (1) *Boletín mensual* (1963~)
- (2) *Memoria* (1962~)
- (3) *Revista* (1963~)
- (4) *Informe económico*, 1962.

中央銀行発行のベネズエラ経済年報。統計部分は少なく、年間のサーベイが主要部分を占めている。各省のMemoriaなどから経済関係のデータを総合した網羅的

な経済年報として、信頼度が高い。

4. 統計局 (Dirección de Estadística y Censos Nacional)

Ministerio de Fomentoに所属。官庁出版物の配布組織がはっきりしていない。統計部局係員の個人的親切によって、以下のものを入手した。

- (1) *Boletín mensual de estadística*, (1963~)
- (2) *Boletín de comercio exterior*, (1963~)
- (3) *Division político-territorial de la República*, 1961.
- (4) *III censo agropecuario*, 1961.
- (5) *IX censo nacional de población*, 1962.
- (6) *Proyección de la población de Venezuela*, 1963.
- (7) *Estimación de necesidades de viviendas en Venezuela durante el periodo, 1950~81*, 1963.

5. 書店

Aguilar S.A.

イギリス、フランス、スウェーデン、ラテン・アメリカ諸国に支店網を持つ出版社兼書店。Catalogo generalがあって便利。以下のものを購入した。

- (1) *La Economía del comercio internacional de Venezuela*, T.E. Carrillo Batalla, 1962.
- (2) *Petróleo y desarrollo económico de Venezuela*, H. Malave Mata, 1962.

6. 新聞

- (1) *El Nacional*.

発行部数約10万、中立系の代表的新聞である。左翼政見であるMIRの指導者にも紙面を提供している。

- (2) *El Universal*.

発行部数約9万、保守系、カラカス以外の各地方の経済ニュースに詳しい。

(図書資料部)